

科目名	認知症介護実践リーダー研修の理解	研修形態と講義時間：講義・演習（60分）
目的	チームにおける認知症ケアを推進する実践リーダーの役割とこの研修科目との関係性を踏まえ、研修の概要を把握する。実践リーダーとしての自己の課題を確認し、研修における学習目標を明確にする。	
到達目標	1. 実践リーダーの役割と研修科目との関連性を踏まえて研修の概要を把握する。 2. 実践リーダーとしての課題を認識し、研修における学習目標を明確化できる。	
概要	チームにおける認知症ケアを推進する実践リーダーに求められる役割を知り、研修科目の必要性や研修全体の目的など研修概要を把握する。また、実践リーダーとしての自己課題を確認し、研修の受講動機を高め、学習目標を明確にする。	
	内 容	備 考
1. 実践リーダーの役割	1) チームマネジメントにおける実践リーダーの役割 2) 職場における指導	・認知症の人についての正しい理解を踏まえ、本人・家族が尊厳を保持し、希望をもって暮らすことができる共生社会の実現に向けたチームケアの推進やスタッフへの指導をする役割を理解する。
2. 実践リーダー研修の概要	1) 研修の目的 2) 研修の到達目標 3) カリキュラム全体の構成 4) カリキュラム別のねらいと概要	・認知症ケアを推進するための実践リーダーの役割のポイントを知る。 ・実践リーダー研修のねらいや科目のねらいと内容を理解する。 ・実習課題設定の内容と流れを理解する。
3. 実践リーダーとしての課題の明確化	1) 実践リーダーとしての課題の明確化 2) 研修における学習目標の明確化	・自己の課題、学習目標を文章化する。

※オンラインを活用する場合は、同時双方向で意思疎通等できる方法とし、実質的に集合研修と同程度の効果が期待できることとする。

科目名	施策の動向と地域展開	研修形態と講義時間：講義・演習（120分）
目的	地域における認知症施策の展開例を通して認知症施策の動向を理解し、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の理念を推進する展開方法を理解する。	
到達目標	1. 認知症施策の変遷を踏まえた認知症ケアに関連する施策の動向を理解し、説明できる。 2. 地域における認知症施策の具体的な展開方法を理解する。	
概要	本科目は、共生社会の実現を推進するための認知症基本法の理念である「認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができる共生社会の実現」を推進できるよう認知症施策の変遷と最新の動向を踏まえた上で、地域における施策の展開例を通じて認知症施策の方向性を理解する。	
	内 容	備 考
1. 認知症施策の動向と共生社会の実現を推進するための認知症基本法の方向性	1) 認知症施策の変遷 2) 共生社会の実現を推進するための認知症基本法制定の経緯 3) 共生社会の実現を推進するための認知症基本法のビジョン・目的と概要 4) 認知症施策上の実践リーダー研修の位置づけ・意義	<ul style="list-style-type: none"> 当該地域における施策の実践例を理解する。 認知症加算・認知症専門ケア加算等の解説を含む。
2. 地域における認知症ケア関連施策の展開	1) 認知症ケアの実践と施策の関係 2) 全国における各地域での認知症施策の展開事例 3) 地域における認知症施策の展開方法	<ul style="list-style-type: none"> 共生社会の実現を推進するための認知症基本法の内容について、地域での実践展開の方法を、演習等を通して理解する。

※オンラインを活用する場合は、同時双方向で意思疎通等できる方法とし、実質的に集合研修と同程度の効果が期待できることとする。

科目名	認知症の専門的理解	研修形態と講義時間：講義・演習（90分）
目的	認知症ケアにおけるチームケアを推進するリーダーとして、高度な認知症の知識を有し、認知症ケアに関する最新かつ専門的な知識を得る。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の病態や、診断等に関する専門知識を踏まえた上で、生活への影響を理解する。 2. 認知症に使用される薬に関する開発の動向を理解し、認知症の人の生活への影響や使用の注意点を理解する。 3. 認知症の人の生活の質の向上を目的とした非薬物療法の役割、方法、効果を理解する。 	
概要	認知症におけるチームケアの促進や介護職員等の指導を担う実践リーダーは最新の知識を有し、同時に認知症に関する専門的な知識を活用したケアの実践、介護職員等の指導、チームケアの質の向上が期待されている。本科目は、認知症ケアにおける実践リーダーに必要な認知症に関する最新かつ専門的な知識を習得する。	
	内 容	備考
1. 認知症に関する理解	<ol style="list-style-type: none"> 1) 認知症の原因疾患別の特徴（病態や症状、診断基準など） 2) 原因疾患別の症状による生活への影響 3) 認知症に起きやすい合併症 4) 若年性認知症の特徴 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践者研修で学んだ知識に最新の情報を加えて発展させる。
2. 医学的視点に基づいた介入	<ol style="list-style-type: none"> 1) 医師による認知症の説明とその支援 2) 原因疾患に応じた治療薬の種類と特徴 3) 行動・心理症状（BPSD）に用いられることがある薬物の主な作用機序と副作用、使用方法 4) 非薬物療法の方法と特徴（回想法, R0療法, 音楽療法などの療法や活動支援等） 5) 認知症の人のエンドオブライフケア 	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医・認知症サポート医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドライン（第3版）（令和6年度厚生労働科学特別研究事業）を参考にする。 ・認知症の人の意欲や個性に合わせた、生活の質を向上する活動や療法の重要性を説明する。 ・非薬物療法については、実践事例を用いて説明する（ただし効果については「認知症疾患診療ガイドライン2017、編集；「認知症疾患診療ガイドライン」作成委員会」を参考にする）。

※オンラインを活用する場合は、同時双方向で意思疎通等できる方法とし、実質的に集合研修と同程度の効果が期待できることとする。

科目名	ストレスマネジメントの理論と方法	研修形態と講義時間：講義・演習（150分）
目的	チームケアを円滑に運用するため、ストレスの仕組みと対処法を理解した上で、実践リーダーとして介護職員等のストレスの緩和やメンタルヘルスのマネジメントを実践することができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームにおけるストレスマネジメントの意義と必要性を理解する。 2. ストレスのしくみと対処法を理解する。 3. 認知症ケアにおけるストレスと対処法を理解する。 4. 組織のメンタルヘルス対策や実践リーダーが果たすべき役割を理解し、チームメンバーへの支援方法を理解する。 	
概要	チームを活性化するためにはメンバー個々のストレス評価を行い、ストレス度や原因に応じたストレス緩和を実行することが必要である。本科目では、ストレス概念の理解やストレス理論を理解した上で、実践リーダーとしてチームメンバーのストレスを緩和する方法論や実践方法を学ぶ。	
	内 容	備 考
1. チームにおけるストレスマネジメントの意義と必要性	<ol style="list-style-type: none"> 1) チームにおけるストレスマネジメントの意義と必要性 2) ストレスの考え方 3) 認知症ケアのストレスの考え方 4) 認知症ケアにおけるストレスマネジメントの意義と必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスマネジメントに関する理論を踏まえて、認知症ケアにおけるストレスマネジメントの意義と必要性を理解する。 ・ストレスの考え方は、肯定的側面についても取り上げる。
2. ストレスマネジメントの方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) セルフケアの方法 2) チームメンバーへの支援方法 3) 組織によるストレスマネジメントの方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアにおける具体的なストレスマネジメントの方法を学ぶ。 ・実際のストレスマネジメントの方法を、演習を通して体験的に理解する。

※オンラインを活用する場合は、同時双方向で意思疎通等できる方法として、実質的に集合研修と同程度の効果が期待できることとする。

科目名	カンファレンス（会議）の技法と実践	研修形態と講義時間：講義・演習（180分）
目的	チームにおける意思決定、情報共有、メンバー間の円滑なコミュニケーションの活性化を促進しチーム力の向上を図るため、効果的なカンファレンス（会議）の展開方法を習得する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームケアの質の向上を目的としたカンファレンス（会議）の目的や意義、必要性を理解する。 2. チームの意思決定や、情報の共有、コミュニケーションの活性化を促進する方法を理解し、目的に応じた効果的なカンファレンス（会議）を展開することができる。 	
概要	<p>チームケアを実現するためには、利用者のニーズに基づき導かれたケアの目的や目標に沿って決定したケアの方法について、チームメンバー間で共有することが必須である。また、チームメンバー間のコミュニケーションを円滑にし、チームを活性化するためには円滑なカンファレンスの運用が必要である。本科目では、チーム力を向上するための効果的なカンファレンスの展開方法を学習する。</p>	
内 容		
1. チームにおけるカンファレンス（会議）の目的と意義	<ol style="list-style-type: none"> 1) カンファレンス（会議）の目的や意義 2) カンファレンス（会議）の種類と特徴 3) チームケアにおけるケアカンファレンスの目的と意義 	<p>備考</p> <p>・模擬カンファレンスにて実際に進行役、スーパーバイザー役等を体験的に理解したうえで、効果的なカンファレンスについて振り返りを行う。</p>
2. カンファレンス（会議）を円滑に行うためのコミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1) 報告・連絡・相談の違い 2) 建設的な議論になるためのコミュニケーションの留意点 	
3. 効果的なカンファレンス（会議）の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1) 事前周知（告知、開催目的の明確化、検討内容の通知、資料配布と議事録） 2) カンファレンス（会議）の役割分担（進行、スーパーバイザー、参加メンバー） 3) 効果的な議論を促すためのポイント 	

科目名	認知症ケアにおけるチームマネジメントの理論と方法	研修形態と講義時間：講義・演習（240分）
目的	認知症ケアにおけるチームケアを推進するため、円滑にチームを運用する実践リーダーとしての役割を自覚し、認知症ケアにおけるチームケアのマネジメント方法を理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームマネジメントに関する基本的な考え方や方法を説明できる。 2. 認知症ケアにおけるチームマネジメントの意義と実践方法を理解する。 3. 認知症チームケア推進研修の方法を理解し実践できる。 	
概要	<p>チームによる認知症ケアの向上において、実践リーダーはチーム構築や活性化を促進するチームマネージャーとしての役割が期待されている。本科目ではチームの目標や方針の設定と管理、介護職員等のストレスマネジメント、情報共有のためのカンファレンス等の実施、職員等への動機づけ、教育や指導等の基本的なチームマネジメントの方法を踏まえ、認知症ケアにおけるチームケアを促進するマネジメントの実践方法を修得する。</p>	
内 容		備 考
1. チームマネジメントの基本的理解	<ol style="list-style-type: none"> 1) チームづくりに必要な条件 2) チームの種類と役割 3) チームマネジメントの理論と方法 <ul style="list-style-type: none"> ・目標や方針の設定と管理 ・コミュニケーション支援の必要性 ・動機づけの必要性 ・ストレスマネジメントの必要性 ・情報共有やカンファレンスの必要性 ・教育指導の必要性 	
2. 認知症ケアにおけるチームマネジメントの必要性	<ol style="list-style-type: none"> 1) 認知症ケアにおけるチームケアの意義と必要性 2) 認知症ケアにおけるチームマネジメントの意義と必要性 	
3. 認知症である入所者等の尊厳を保持した適切な介護、行動・心理症状（BPSD）の出現・重症化を予防するケアの基本的な考え方の理解（「認知症チームケア推進研修」の内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1) BPSDとそのケアの基本的考え方 2) 認知症チームケア推進の具体的方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアにおけるチームマネジメントの展開例として認知症チームケア推進研修に準拠した内容を学習する。（70分）
4. 認知症のチームケアにおけるチームマネジメントの実践方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 多職種・同職種チームにおける効果的なチームマネジメントの展開方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームマネジメントに関する理論や方法について、認知症ケアにおけるチームケア事例を通して具体的な実践方法を学ぶ。

科目名	職場内教育（OJT）の理論と方法	研修形態と講義時間：講義・演習（420分）
目的	認知症におけるチームケアを向上するリーダーとして、指導に関する理論と指導計画の立案方法、指導技法の種類と特徴を学び、認知症ケアの効果的な指導方法を修得する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームマネジメントにおける人材育成の意義と方法を理解する。 2. 認知症ケアにおける職場内教育（OJT）の意義を理解する。 3. 職場内教育（OJT）の計画方法を体験的に理解する。 4. 職場内教育（OJT）における有効な指導技法の種類と実際の方法を理解する。 	
概要	<p>介護職員等の技術向上は、スーパービジョンや個別指導等の職場内の指導による教育が有効であり、実践リーダーには職場内教育（OJT）を実践しチームケアの質の向上を達成する役割が期待されている。実践者への指導や教育を担っている実践リーダーの指導能力はチームケアの質に大きく影響しているため、実践リーダーは人材育成に関する知識や理論、方法を理解し指導力を高めることが必要である。本科目では指導の理論や指導計画の立案方法、指導技法の理解を通じ職場内教育（OJT）の理論と方法を学ぶ。</p>	
内 容		
	内 容	備 考
1. 人材育成の意義と方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 人材育成の意義と目的 2) 指導における基本的態度 3) 育成方法の種類と特徴 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の基本的な態度としてエンパワーメント視点や動機付けの重要性を理解する。
2. 職場内教育（OJT）の意義と方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 職場内教育（OJT）の意義と目的 2) Off-JT、自己啓発（SDS）の限界と職場内教育（OJT）の有効性 	
3. 職場内教育（OJT）における指導技法	<ol style="list-style-type: none"> 1) ティーチング・コーチングの理論と技法の理解 2) 面接技法の理論と技法の理解 3) スーパービジョンの基本的理解 4) ティーチング・コーチング・面接技法を活用した指導の実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・演習を通して実際の技法を体験し、基本的な技術を修得する。 ・指導事例を通して指導技法の実践方法を理解する。 ・指導の際に留意する倫理的配慮の方法を理解する。
4. 職場内教育（OJT）の実践方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 指導課題の設定方法 2) 指導目標の設定方法 3) 指導計画の立案方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成の事例について評価方法、指導目標設定、指導方法等の職場内教育（OJT）の計画立案の方法を、演習を通して理解する。 ・認知症ケアの指導に限定しない職場内教育（OJT）の計画立案の過程について体験的に理解する。

科目名	認知症ケア指導の実践方法	研修形態と講義時間：講義・演習（420分）
目的	これまでに学習した認知症ケアに関する指導技術について、食事・入浴・排泄等の日常生活や、行動・心理症状（BPSD）が生じている具体的場面において、認知症の人の生活の質の向上を目的としたケアの指導方法を体験的に理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行動・心理症状（BPSD）への支援方法や生活支援の方法に対する指導の演習を通じ、介護職員等を指導するための方法を理解する。 2. 認知症ケアにおけるアセスメント及びケアへの指導計画を立案することができる。 3. 介護職員等に対する自己の指導の特徴を理解する。 	
概要	認知症の人についての正しい理解の元、認知症を正しく理解し、本人・家族が尊厳を保持し、希望をもって暮らすことができる共生社会の実現に貢献できる介護職員等の養成を目的とし、介護職員等のケアの評価、個別課題の明確化、指導目標の設定及び指導計画の立案について事例演習を通して、実践的な指導力を高めることを目指す。また、自己の指導の特徴と今後学習を進める課題を明らかにすることを旨とする。	
内 容		備 考
1. 介護目標設定に関する指導 （事例演習）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生活の質を向上する介護目標の考え方 2) 介護目標に関する評価の視点 3) 介護目標立案に関する指導方法 （課題の設定、指導目標、指導方法） 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人の理解を踏まえた認知症の理解、意思決定支援による人権の尊重、本人・家族の尊厳の保持、希望を持って暮らすことのできる共生社会の実現を目指した介護目標、アセスメント視点、ケア方法に留意した指導方法を理解する。
2. アセスメントに関する指導 （事例演習）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生活の質を向上するアセスメントの視点 2) アセスメントに関する評価の視点 3) アセスメント方法に関する指導方法 （課題の設定、指導目標、指導方法） 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の介護事例を取り上げ、介護職員への指導方法のプロセスを体験的に学ぶ演習とする。なお、事例の選定は、「食事・入浴・排泄等の日常生活場面における介護事例」、「行動・心理症状（BPSD）への介護事例」から1つ以上を選択すること。
3. 生活の質を向上するケア方法に関する指導 （事例演習）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生活の質を向上するケアの考え方 2) ケア方法に関する評価の視点 3) ケア方法に関する指導方法（課題の設定、指導目標、指導方法） 	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的ジレンマ、権利擁護、家族介護者支援、リスクマネジメント等の事例も含むこと。
4. 自己の指導の特徴の振り返り	<ol style="list-style-type: none"> 1) 演習全体を通じた学びの振り返り 2) 自己の指導の特徴と課題の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケア実践の振り返りができるようにする

科目名	職場実習の課題設定	研修形態と講義時間：講義・演習（180分）
目的	研修で学んだ内容を生かして、職場の介護職員等の認知症ケアの能力の評価方法を理解する。	
到達目標	1. 介護職員等の認知症ケアの能力に関する評価方法を立案できる。 2. 講義、演習で学んだ内容を生かし、認知症ケアの指導に関する実習計画を立案できる。	
概要	講義、演習で学んだ内容を生かし、職場における介護職員等の認知症ケアに関する態度、知識、技術の向上を目的とした教育、指導を実践し、認知症ケアに関する指導方法の実際を体験的に理解するため、本科目では介護職員等の認知症ケアの能力を評価する方法を立案することを目指す。	
	内 容	備 考
1. 介護職員等の認知症ケアの能力に関する評価方法の理解	1) 介護職員等の認知症ケアに関する態度、知識、技術に関する現状分析の方法 2) 指導対象となる介護職員等の選定 3) 介護職員等の認知症ケアの能力の評価方法立案の過程 4) 実習計画作成の過程	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人の理解を踏まえた認知症の理解、意思決定支援による人権の尊重、本人・家族の尊厳の保持、希望を持って暮らすことができる共生社会の実現に向けたケアの観点を評価視点として強調すること
2. 介護職員等の認知症ケアの能力に関する評価方法の立案（演習）	1) 基本的知識への評価方法の立案 2) ケア目標への評価方法立案 3) アセスメント方法への評価方法の立案 4) ケア方法への評価方法の立案 5) ケア評価に関する評価方法の立案	<ul style="list-style-type: none"> 実習に向け、介護職員等の認知症ケアの評価方法を考え実習への準備を行う。
3. 実習計画の立案（演習）	1) 実習目標 2) 実習計画 3) 実習中の資料作成	<ul style="list-style-type: none"> 実習のタイムスケジュールを作成し、実習の目標と流れを理解する。 研修時間が不足する場合は、地域の実状に応じて任意に延長することが望ましい。

※カリキュラムの目的および到達目標の達成が見込めない場合、実施主体の判断によって学習時間の延長を可能とする

科目名	職場実習	研修形態と講義時間：実習（4週間）
目的	研修で学んだ内容を生かして、職場の介護職員等の認知症ケアの能力の評価、課題の設定・合意、指導目標の設定や指導計画を作成し、指導計画に基づいた認知症ケアを指導する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護職員等の認知症ケアの能力を評価し、課題を設定・合意できる。 2. 介護職員等の認知症ケアにおける指導目標を立案できる。 3. 指導目標に応じた指導計画を作成できる。 4. 講義、演習で学んだ指導方法を職場で実際に活用できる。 	
概要	講義、演習で学んだ内容を生かして、職場における介護職員等の認知症ケアに関する態度、知識、技術の向上を目的とした教育、指導方法の実際を理解するため、本科目では実習に協力する介護職員等の認知症ケア上の課題に応じた指導計画の作成を体験的に理解し、職場内での指導方法の理解を深めることを目指す。	
	内 容	備 考
1. 認知症ケア能力の評価と課題の設定・合意	<ol style="list-style-type: none"> 1) 介護職員等の認知症ケアに関する態度、知識、技術の評価 2) 実習に協力する介護職員等の認知症ケア上の課題案の設定・合意 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1－1) 評価に基づき、課題案の設定・合意を行う。
2. 指導目標の立案方法の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアの課題に応じた指導目標の立案 	
3. 指導目標に応じた指導計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導目標に応じた指導視点や方法に関する指導計画の作成 	
4. 指導計画に応じた指導の実施	<ol style="list-style-type: none"> 1) 指導計画に応じた基本的知識に関する指導の実践 2) 指導計画に応じたケア目標やアセスメント方法への指導の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作成した指導計画を基にした指導は、任意とする。ただし、作成した指導計画を協力する介護職員等と共有し、その結果をもとに職場内での指導における自己の課題を検討する取り組みは必ず実施する。 ・ 中間報告の実施を推奨する。

科目名	結果報告／職場実習評価	研修形態と講義時間：講義・演習（180分）
目的	職場実習を通して、認知症ケア指導の方法に関する課題やあり方について客観的・論理的に考察・報告し、実践リーダーとして指導の方向性を明確にできる。	
到達目標	1. 職場実習における学びを通し、認知症ケアの指導方法の課題やあり方について客観的・論理的に考察し、報告できる。 2. 介護職員等への認知症ケアの指導にかかる自己の課題を評価し、指導の方向性を明確にすることができる。	
概要	職場実習を踏まえ、実習報告への評価によって、職場における介護職員等の認知症ケアに関する態度、知識、技術の向上を目的とした教育指導方法の課題や今後の方向性を明確にすることを旨とする。	
	内 容	備 考
1. 認知症ケア指導の実践方法に関する自己の課題の整理と考察	1) 結果報告と評価 2) 認知症ケア指導における課題分析 3) 認知症ケア指導における課題の明確化	・認知症の人の理解を踏まえた認知症の理解、意思決定支援による人権の尊重、本人・家族の尊厳の保持、希望を持って暮らすことのできる共生社会の実現に向けたケアの指導方法を整理し、習得する。 ・研修時間が不足する場合は、地域の実状に応じて任意に延長することが望ましい。
2. 認知症ケア指導に関する方向性の明確化	1) 認知症ケアに関する自己の指導の特徴と課題 2) 今後の認知症ケア指導における自己の学習目標と内容の明確化	

※カリキュラムの目的および到達目標の達成が見込めない場合、実施主体の判断によって学習時間の延長を可能とする